



感染症発生動向調査速報

2026年 第39週

令和8年9月21日～令和8年9月27日

送信先	感染症週報登録関係機関担当者様	送信日	令和8年10月1日 (木)
-----	-----------------	-----	---------------

【管内情報】

定点種別	疾病	注意報 開始値	警報値		報告週						
			開始	終息	34w	35w	36w	37w	38w	39w	
インフルエンザ COVID19	インフルエンザ	10	30	10	0.33	1.67	0.67	1.67	9.33	11.67	
	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	1	1.33	1	1	0	0.00	
小児科	RSウイルス感染症	-	-	-	0	0	1	1	2	0.00	
	咽頭結膜熱	-	3	1	0	0	0	0	0	0.00	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	0.5	0	0	0	0	0.00	
	感染性胃腸炎	-	20	12	4.5	7	7.5	6	3.5	1.50	
	水痘	1	2	1	0.5	0.5	0	0	0	0.00	
	手足口病	-	5	2	0.5	0	0	0	0.5	0.00	
	伝染性紅斑	-	2	1	0	0	0	0	0	0.00	
	突発性発しん	-	-	-	0	0	0.5	0	0	0.00	
	ヘルパンギーナ	-	6	2	0	0	0	0.5	0	0.00	
	流行性耳下腺炎	3	6	2	0	0	0	0	0	0.00	
眼科	急性出血性結膜炎	-	1	0.1	0	0	0	0	0	0.00	
	流行性角結膜炎	-	8	4	1	0	0	0	1	0.00	
基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00	
	無菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00	
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	0	0	0	2	0	0.00	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00	
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00	
急性呼吸器感染症	急性呼吸器感染症(ARI)	-	-	-	11.33	23.33	18.33	26.67	32	27.33	

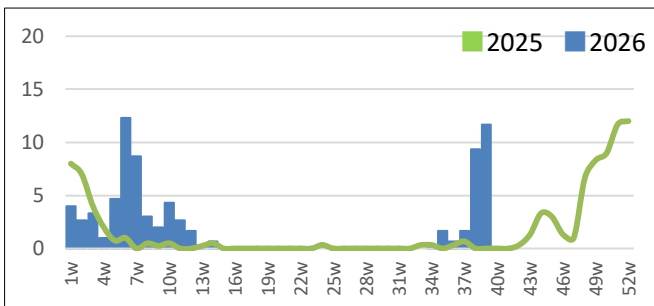


図1 インフルエンザ発生状況(定点当たり)

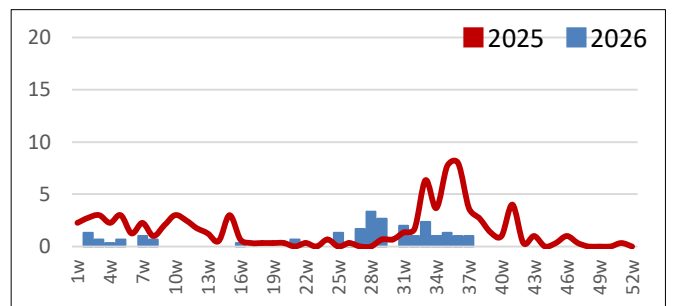


図2 新型コロナウイルス感染症発生状況(定点当たり)

警報発令	なし
注意報発令	インフルエンザ
全数報告届出	なし

【通信欄】

- 五島でもインフルエンザが急増し、第39週には定点あたりの報告数が11.67となり、注意報発令となりました。
- 管内の学校・保育園等からも集団発生の報告がっており、今後も患者数の増加が懸念されます。手洗いの実施、適切なマスクの使用、換気等の基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。
- また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

全国・県・五島の発生状況は県ホームページを参照 <https://www.pref.nagasaki.jp/section/gt-h-kikaku/>
(お問い合わせ) 長崎県五島保健所 企画保健課 TEL0959-72-3125 担当:馬郡、福本

長崎県感染症発生動向調査速報(週報)

2026年第39週 2026年9月21日(月)～2026年9月27日(日) 2026年10月1日作成

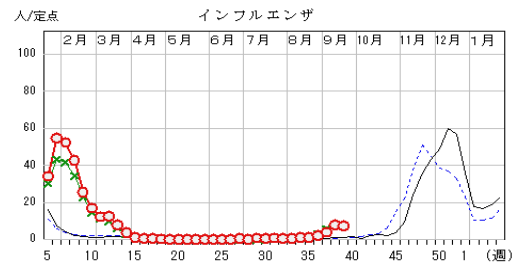
☆定点※報告疾患(定点当たり報告数の上位3疾患)の発生状況

(1) インフルエンザ

第39週の報告数は367人で、前週より19人少なく、定点当たりの報告数は7.34であった。

年齢別では、10～14歳(50人)、50～59歳(32人)、30～39歳(29人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所(15.25)、五島保健所(11.67)、対馬保健所(11.00)、壱岐保健所(10.00)であった。

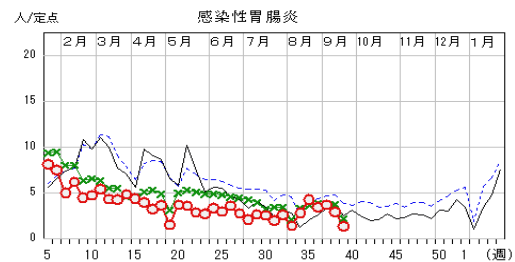


(2) 感染性胃腸炎

第39週の報告数は42人で、前週より49人少なく、定点当たりの報告数は1.35であった。

年齢別では、1歳(11人)、10～14歳(7人)、2歳(6人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所(3.00)、県北保健所(3.00)、西彼保健所(2.67)であった。

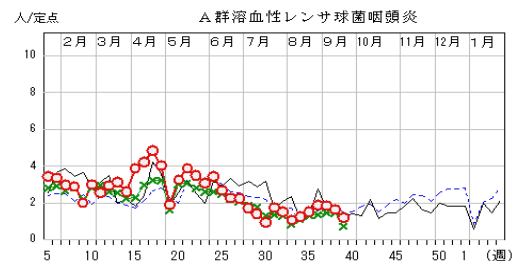


(3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第39週の報告数は37人で、前週より14人少なく、定点当たりの報告数は1.19であった。

年齢別では、5歳(8人)、6歳(7人)、10～14歳(5人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所(7.67)であった。



○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
× 当年(全国) - - 前年(全国)

※急性呼吸器感染症定点数：50、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第39週の報告数は367人で、定点当たりの報告数は7.34でした。地区別にみると、県央地区(15.25)、五島地区(11.67)、対馬地区(11.00)、壱岐地区(10.00)は他の地区より多く、注意報レベルの報告数となっています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。

【感染性胃腸炎】

第39週の報告数は42人で、定点当たりの報告数は1.35でした。地区別にみると、佐世保地区（3.00）、県北地区（3.00）、西彼地区（2.67）は他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第39週の報告数は37人で、定点当たりの報告数は1.19でした。地区別では、県南地区（7.67）が他の地区より多くなっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけてはマダニ等の活動が活発になり、これらの感染症のリスクが高まります。

県内では、4月以降、SFTS 8件、日本紅斑熱 25件、つつが虫病1件の報告があがっています。

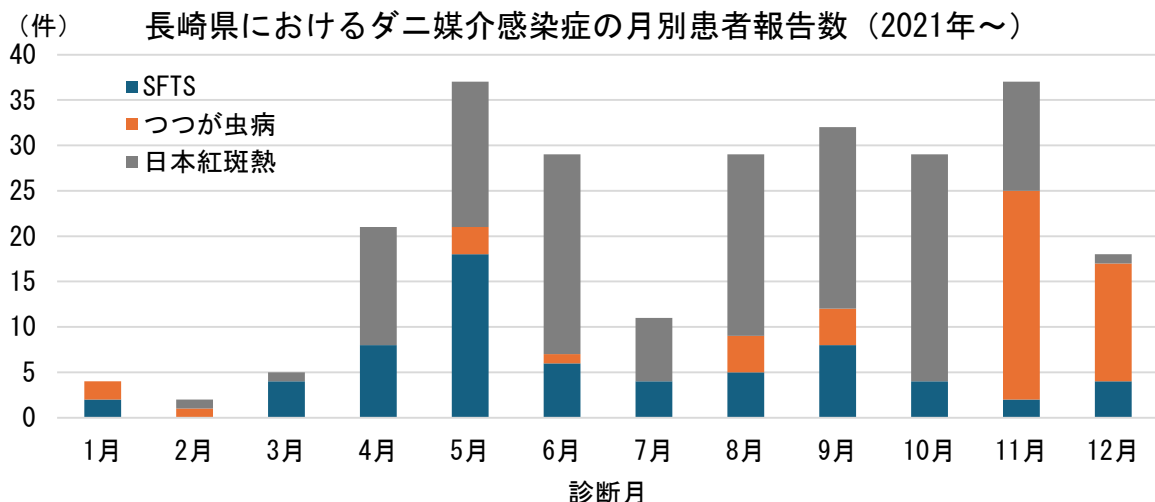
マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

SFTSに関しては、近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2021	2022	2023	2024	2025	2026
SFTS	6 (6)	13 (10)	13 (9)	13 (11)	12 (10)	8
日本紅斑熱	28 (17)	22 (10)	14 (12)	24 (16)	25 (17)	25
つつが虫病	14 (4)	7 (0)	15 (6)	11 (2)	2 (0)	2

※()は第39週までの発生件数

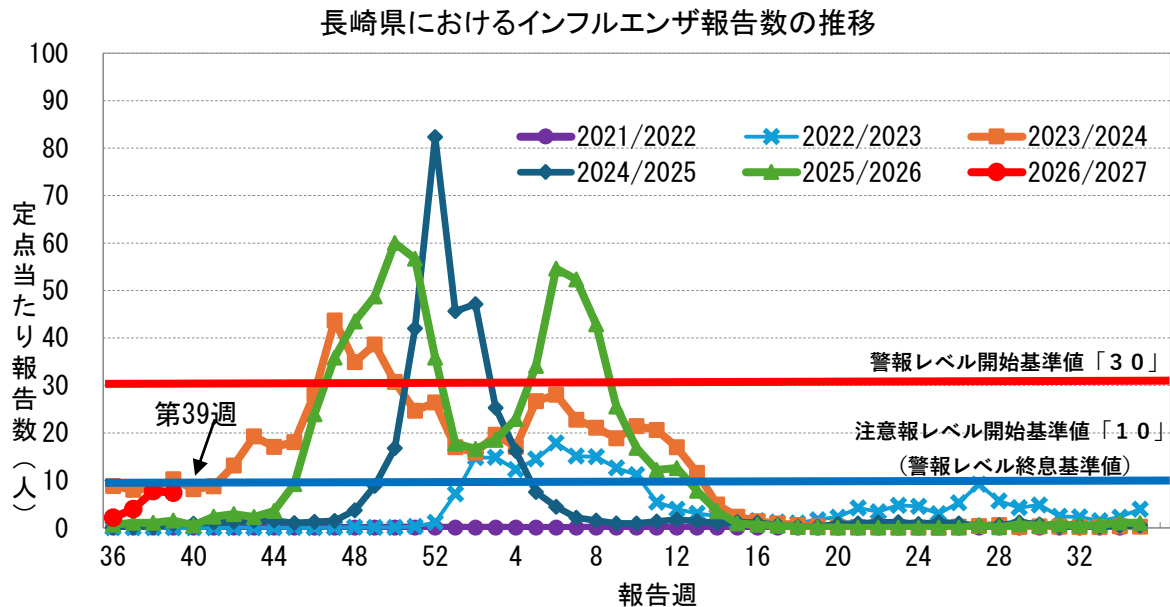


☆トピックス：インフルエンザを予防しましょう

2026年第39週のインフルエンザの定点当たり報告数は「7.34」でした。県内では第34週に流行開始の目安となる「1.00」を上回り、流行期に入っています。地区別にみると、県央地区（15.25）、五島地区（11.67）、対馬地区（11.00）、壱岐地区（10.00）は他の地区より多く、注意報レベルの報告数となっています。

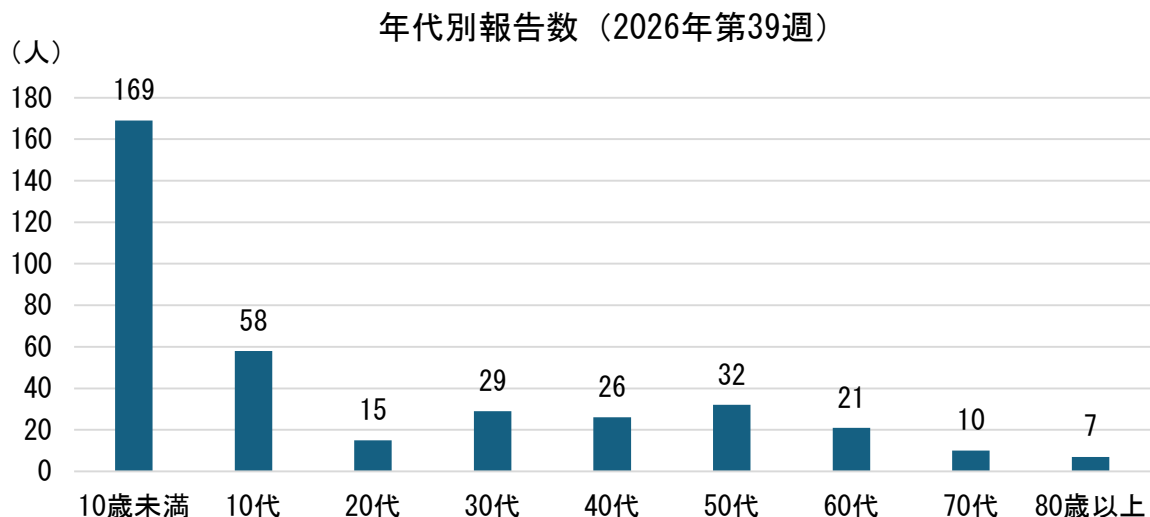
今後も患者数の増加が懸念されますので、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

（参考）長崎県感染症情報センター 「インフルエンザ」
<https://www.pref.nagasaki.jp/doc/page-685285.html>



インフルエンザの保健所別報告数

	長崎県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
報告数	367	11	79	30	3	122	36	3	35	15	33
定点数	50	7	11	3	5	8	4	3	3	3	3
定点当たり報告数	7.34	1.57	7.18	10.00	0.60	15.25	9.00	1.00	11.67	5.00	11.00



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（80代以上・1名）
 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 無症状病原体保有者 女性（60代・1名）
 4類感染症：重症熱性血小板減少症候群 患者 女性（50代・1名）
 日本紅斑熱 患者 男性（70代・1名）
 レジオネラ症 患者 男性（50代・1名、60代・1名）
 5類感染症：報告なし

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況

(第34～39週、8/17～9/27)

疾 患 名	定 点 当 た り 患 者 数					
	34週	35週	36週	37週	38週	39週
	8/17～	8/24～	8/31～	9/7～	9/14～	9/21～
インフルエンザ	1.08	0.94	2.12	3.90	7.72	7.34
新型コロナウイルス感染症	1.12	1.80	2.14	1.76	1.28	0.58
RSウイルス感染症	0.87	0.87	1.06	1.16	1.10	0.61
咽頭結膜熱	0.61	0.39	0.35	0.13	0.32	
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.26	1.52	1.87	1.84	1.65	1.19
感染性胃腸炎	2.84	4.26	3.42	3.68	2.94	1.35
水痘	0.77	0.39	0.23	0.13	0.42	0.03
手足口病	0.48	0.39	0.45	0.48	0.32	0.10
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.03		0.03	0.10	0.10	0.06
突発性発しん	0.42	0.42	0.29	0.52	0.39	0.23
ヘルパンギーナ	0.68	1.45	1.45	1.71	1.32	0.71
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）			0.03	0.03	0.03	
急性出血性結膜炎			0.13	0.13	0.13	
流行性角結膜炎	3.75	3.75	1.63	2.25	2.13	0.63
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎						
マイコプラズマ肺炎	0.17	0.08		0.33	0.17	0.08
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						
急性呼吸器感染症（ARI）	42.32	50.92	56.88	59.56	65.82	42.00

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況

(第39週、9/21～9/27) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾 患 名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	7.34	1.57	7.18	10.00	0.60	15.25	9.00	1.00	11.67	5.00	11.00
新型コロナウイルス感染症	0.58	0.14	0.36		1.00	0.38	0.25	0.33			4.67
R Sウイルス感染症	0.61	0.50	1.33		0.67	0.40	1.33	0.50			
咽頭結膜熱											
A群溶血性Ⅱ球菌咽頭炎	1.19	0.75	0.67	0.50	0.33	0.60	7.67				1.00
感染性胃腸炎	1.35	3.00	1.00		2.67	1.20	0.33	3.00	1.50		
水痘	0.03						0.33				
手足口病	0.10		0.33			0.20					
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.06						0.33	0.50			
突発性発しん	0.23		0.17		0.33	0.80				0.50	
ヘルパンギーナ	0.71	1.50	0.83			1.40	0.33	1.00			0.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.63		0.67		3.00						
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.08		0.33								
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	42.00	29.43	68.45	19.33	37.60	57.25	33.75	24.00	27.33	14.00	35.33